

令和7年度 特別支援学級 学級経営案

学級目標	学校の教育目標を踏まえ、将来社会に出て自立した生活が営める生徒の育成を目指し、次のような生徒を育てる教育を推進する。 ア 基本的な生活習慣を身に付け、健康で根気強い生徒 イ 社会生活に必要な基礎的な学力を身に付け、自立し、生きる力をもつ生徒 ウ 規範意識を身に付け、自主的に考え、判断する生徒 エ コミュニケーション能力や社会性を身に付け、思いやりのある生徒
学級の経営方針	① 合理的配慮に基づき、個々の障がい特性や発達段階を踏まえ、保護者と相互理解を深めながら個別の教育支援計画及び個別指導計画を作成し、小学校や医療・福祉機関、地域と連携を密にし、個に応じた指導の充実を図る。 ② 家庭との連携により基本的生活習慣を確立し自立心を養うと共に、朝のトレーニングを継続して体力を向上させ、健康の保持・増進につなげ、自立に向けて社会生活に必要な基盤を作る。 ③ 足立スタンダードを踏まえた授業を確立し、日常生活に必要な知識となる基礎的・基本的な学力を定着させ、日常生活に必要な知識や技能及び応用力の伸長を図り、課題に自主的に取り組む意欲と主体性、自己表現力を育て、自己肯定感を高める。 ④ 区内小中学校特別支援学級と連携して情報を共有し、生徒理解に役立てる。また、指導方法を検討し、授業改善を図り、学びの連続性をもたせるよう、計画的に学習を展開する。 ⑤ 3年間を通して進学や就労に向けての知識や意欲を伸長し、計画的に個に応じた進路指導を進める。 ⑥ 学校行事や区・都の連合行事、地域活動への積極的な参加を通じ、通常の学級や他校生徒、地域社会との交流及び共同学習を進め、コミュニケーション能力を向上させ、学校や社会の一員としての自覚を促し、地域社会でよりよく生きていく力を養う。 ⑦ 社会的自立を目指すために、家庭の理解や協力を得ながら地域行事への参加や公共施設を利用した校外学習を積極的に行い、地域に根ざした教育活動を通して郷土を愛する生徒を育てるとともに、余暇活動の充実や、自律的な社会生活を実践できる指導を工夫する。 ⑧ 学級通信や学校ホームページの活用、生徒作品の掲示や学校公開期間の授業公開、開かれた学校づくり協議会との連携事業等を通して学級情報を積極的に発信し、特別支援学級への理解啓発を進める。
学級経営を行う具体的内容と方法	【学習指導】 ① 生徒一人ひとりの能力や特性の理解に努め、小グループによる指導を展開し、できる喜びを感じながら生き生きと学習活動に参加し、自己肯定感を高めることができるように授業形態を工夫する。 ② 足立スタンダードを基盤とし、生徒の主体性を活かした授業を実施し学びの質を深めるとともに、生徒の実態に応じた個別指導を行い、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。 ③ 生徒の興味・関心や理解を高めるため、必要に応じて視聴覚機器等のICT機器を効果的に活用することにより、指導方法を工夫・改善し、生徒が進んで学習する態度を育てる。 ④ 各教科の知識や技能を活用する体験活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等の能力を育むとともに、全教科を通して言語活動の充実を図る。 ⑤ 基礎体力や身体機能を高め、豊かな情操や創造性、作業能力、集中力等を育成する。 【生活指導】 ① 年3回の面談、年4回の学級保護者会を実施し、保護者との連携強化を図り、問題行動の未然防止に努めると共に、基本的生活習慣の定着と生活リズムの確立を図る。 ② いじめ問題の予防・解決に向けて、「いじめアンケート」を年3回行くと共に、教育相談による個別面談を通して問題点を共通理解した上で、対応を検討し、解消を図る。 ③ コミュニケーション能力の育成に重点を置き、いじめや差別、偏見を許さない精神を伸長し、自他の生命と人権を尊重し、規範意識をもち、豊かな人間関係を築いていけるよう、継続的に指導を行う。 ④ 登下校時の通学経路を定期的に確認し、社会的マナーや交通道德等の指導を行うと共に、防犯・事故防止の意識を高め、安全教育の徹底を図る。 ⑤ 「セーフティ教室」や「薬物乱用防止教室」を通して犯罪被害の防止や安全な生活についての理解を深める指導の徹底を図る。 ⑥ 毎月行われる避難訓練と安全指導、防災に関する教材教具（ICT 機器の活用含む）等を活用し、災害時にとるべき行動、災害への備えや安全な生活等について指導を実践し、学校防災及び危機管理マニュアルに基づいた緊急時の対応を徹底させる。 ⑦ 心身の成長に伴う年齢相応の行動や他者とのコミュニケーションの取り方を、個々の発達段階に応じて、適切に指導・支援する。

【進路指導】 ① 個別の教育支援計画や個別指導計画に基づき、生徒や保護者と年3回以上面談を行い、共通理解を図りながら、将来社会人となったときに必要な基本的生活習慣や規範意識を身に付けさせる。 ② 個々の能力や適性に応じた進路選択のため夢デザインシートを参考にしたり、自己理解を伸長し、夢や目標をもてるよう継続的に指導する。 ③ 学校見学や体験授業、職場見学や体験等、具体的な体験を通して進学や就労への意識を高める。 ④ 都立特別支援学校や福祉作業所等の関係諸機関と連携して見学会や学習会を設定し、保護者との連絡を密にしながら進路指導を進める。 ⑤ 将来の社会的自立に向け、職場見学と職場体験を計画的に行い、自らの生き方を考える契機とし、勤労についての意義を理解し、主体的に進路選択する能力を育成する。 【特別活動】 ① 学校行事・生徒会行事への取組や学級活動等を通し、自己実現、社会参画の気持ちを育てる。 ② 日本古来の伝統行事や四季折々の風習等を学ばせ、情緒豊かな心や郷土愛を育む。 ③ 日常生活を中心に挨拶等でコミュニケーションを図り、通常の学級と交流及び共同学習を行事や部活等で積極的に推進し、学校や地域社会の一員としての自覚を促し、意欲的な参加につなげる		
学級の実態	学習	自己肯定感の低さ → 個々の発達段階や障がい特性に応じた課題や目標をスモールステップで設定し、適宜評価を行い、できる喜びを味わいながら自己肯定感を高められるように指導を工夫する。
	生活	コミュニケーション → 基本的な人間関係や、人への思いやりや理解しようとする心を育て、互いを理解しや面での課題 すい雰囲気を作るような指導を、日常生活や様々な学習活動の場面で重視する。個に応じつつ、集団を意識できる取り組みを工夫する。 時間に対する意識 → 時間に対しての意識をもたせるために、日課表などで自己管理を行い、適宜、個別にの希薄 評価を行う。登下校時間やチャイム着席、授業準備など、意識を高められるよう指導する。
	他	身辺自立の不確立 → 自立に向けて、衣服に着脱や整理整頓のスムーズな手順を身に付けたり、身だしなみへの意識を高める。自立の時間を中心に指導し、意識の向上を目指す。